

IV 特別支援教育研修課の研究

[研究 主 題]

特別支援学校における一貫性・系統性のある指導の在り方に関する研究Ⅱ
—知的障害のある児童生徒の指導目標の設定及び指導内容の選択・組織の工夫—

1 研究主題の基本的な考え方

知的障害のある児童生徒の学習上の特性として、学習によって得た知識や技能が断片的になりやすく、実際の生活の場で応用されにくい、また、成功体験が少ないことなどにより、主体的に活動に取り組む意欲が十分に育っていないことなどが挙げられている。このようなことから、知的障害のある児童生徒の教育を行う特別支援学校の授業づくりにおいては、児童生徒が所属する学習集団の全体指導計画と一人一人に作成する個別の指導計画を関連させながら、P（計画）→D（実施）→C（評価）→A（改善）というサイクルに基づいて設定している。的確な実態把握を行い、教育的ニーズを明らかにして作成した個別の指導計画に基づき、障害の特性や発達の段階に応じた指導をきめ細かに行うことが必要である。教職員の共通理解、学部間の連携、実態等に即した指導内容の選択・組織、段階的な指導など、一貫性・系統性のある指導が大切である。

【一貫性のある指導と系統性のある指導】

一貫性のある指導	一人一人の教育的ニーズや指導内容・指導方法などを明らかにし、指導者間及び学部間などで共有して指導すること
系統性のある指導	一人一人の指導目標や指導内容を、各教科の目標や内容、発達の段階や生活経験、生活年齢などを踏まえて指導すること

2 研究内容

前次研究の成果と課題を踏まえ、本研究においては、全体指導計画と個別の指導計画を踏まえたPDC Aサイクルに基づく授業づくりの在り方を提案したい。

- 特別支援学校における指導目標の設定及び指導内容の選択・組織に関する実態調査
- 当課作成の「子供をよりよく理解するための国語，算数・数学チェックリスト」＜改訂版＞（以下「チェックリスト」という。）を活用した実態把握に基づく指導目標の設定と具体例の提案
- 指導内容の選択・組織の基本的な考え方の整理と手順の提案
- 指導に関する評価の観点の見直しと提案
- 検証授業を通じた指導目標の設定及び指導内容の選択・組織の工夫と授業改善

3 実態調査の結果から捉えた課題

(1) 実態調査

【実施目的】	特別支援学校における知的障害のある児童生徒の指導目標の設定及び指導内容の選択・組織についての現状と課題を明らかにする。
【調査日】	平成26年8月1日
【調査対象】	県立特別支援学校16校（176人）に実施
【調査方法】	質問紙法（選択式，一部記述式）

(2) 課題

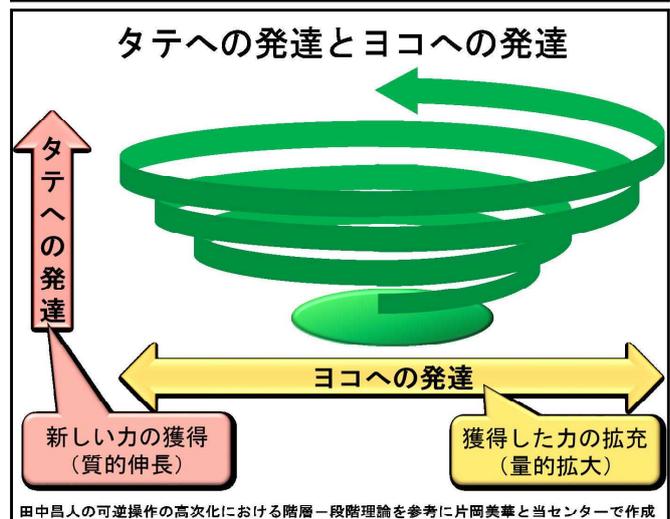
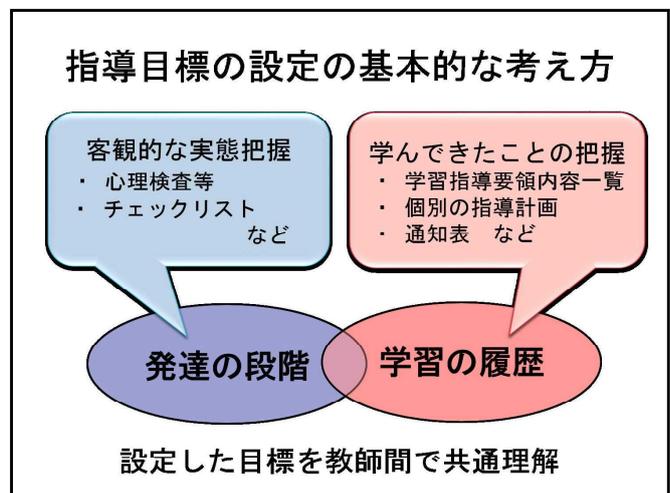
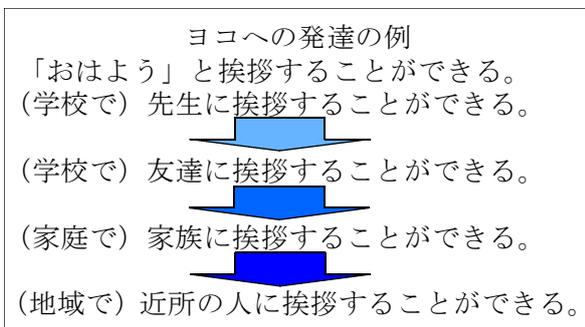
- 実態把握に関しては，行動観察以外の方法をどのように行えばよいか不明確である。
- 指導目標の設定に関しては，教科における評価の4観点など様々である。
- 指導内容の選択・組織に関しては，手順が不明確な部分がある。
- 指導の評価に関しては，単元・題材終了時における評価を次年度の指導計画の見直しに反映させることが十分ではない。

4 指導目標の設定及び指導内容の選択・組織

【指導目標の設定】

指導目標の設定に当たっては，発達の段階と学習の履歴を踏まえることが大切である。

発達の段階を踏まえた指導目標の設定とは，新しい力を獲得する「タテへの発達」と，獲得した力を拡充する「ヨコへの発達」の両方を見て児童生徒の指導目標を設定することである。緩やかに発達を遂げる知的障害のある児童生徒の場合は，次々に新しい力を獲得するための目標を設定するのではなく，獲得した力に関して，様々な条件下においても発揮できるようになることを目指す「ヨコへの発達」が大切である。



学習の履歴については，児童生徒がこれまでどのようなことを学んできたのかを捉えることが必要である。個別の指導計画や通知表などから捉えるとともに，チェックリストなどを活用することで，教科の系統性に基づく学習の履歴をよりの確に把握し，指導目標の設定につなげることが大切である。

【「子供をよりよく理解するための国語，算数・数学チェックリスト」＜改訂版＞】

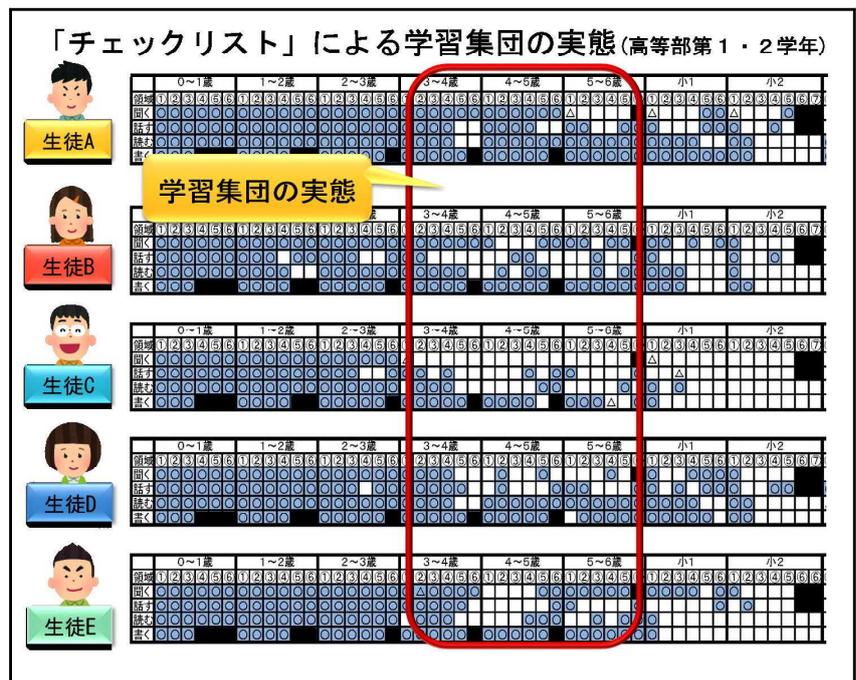
下図は，当課が作成・改訂した「チェックリスト」(国語)の抜粋である。この「チェックリスト」は，国語と算数・数学について，0歳から中学第3学年までチェックでき，児童生徒の学習の履歴把握や今後の学習内容の手掛かりなどに活用できる。

就学前 国語 (聞く)			小学校 国語 (聞く)		
	評価項目	1回 2回		評価項目	1回 2回
0歳	1 大きな音，声に反応する		小1年	1 話し手を見ながら聞く	
	2 音声で泣きやみ，微笑する			2 話の内容の大体を聞き取る	
	3 人の声，鈴の音，ガラガラの音に顔を向け，語り掛けに声を出す			3 主人公の行動に感情移入をし，どんでん返しの面白さが分かる	
	4 母の声と他人の声を聞き分ける			4 子供同士の話をほぼ理解する	
	5 言語要求を理解し，反応する(ちょうだい，おいで，ねんねなど)			5 5数の復唱をする	
	6 言われた所へ，物を持って行き始める			6 昔話や神話・伝承などの本や文章の読み聞かせを聞く	
1歳	1 好きな本を読んでもらいたがり，せがむ		小2年	1 話し手を見ながら集中して聞く	
	2 「お手手はどれ，あんよはどれ」と尋ねると自分の手足を出す			2 話の順序を考えながら内容を聞き取る	
	3 簡単な指示や要求に応じる(～をしてちょうだい，～を持ってきて)			3 話し手の文末表現や接続語に着目して聞く	
	4 自分の名前を呼ばれると「はい」と返事をする			4 大事なことを落とさないようにしながら，興味をもって聞く	
	5 簡単な質問に答える(「ママはどこ?」→「あっち」「かいしゃ」)			5 4数逆唱をする(4-8-6-2→2-6-8-4)	
	6 大人と一緒に紙芝居やテレビを見て楽しむ			1 分からない部分は聞き返して，話の内容を正確に聞き取る	
2歳	1 身近な名詞を聞いて写真や絵を選ぶ		小3年	2 話の要点を聞き取り，自分の立場からまとめる	
	2 2数を復唱する(5-8，7-2など)			3 話し手の思いや願いを共感的に理解しようとする	
	3 「手を洗ったらおやつよ」等，「～して～する」の関係が分かる			4 物語，劇，映画，テレビなどを見聞かして楽しむ	
	4 日常の動作を表した写真や絵を指さす(「歩いているのはどれ?」)			1 話の内容を書きとめながら内容を正確に聞き取る	
	5 物の位置関係を表す言葉を含む命令に従う(「机の上に置きなさい」)			2 話の中心点を聞き取り，質問したり，自分の感想をまとめたりする	
	6 テレビで子供が主人公になっている物語を熱心に見て楽しむ			3 話し手の思いや願いを共感的に理解しながら内容を共有する	
3歳	1 「二つ」ということが分かる		小4年	4 必要な場合は指示や説明のメモを取りながら正しく聞き取る	
	2 3数を復唱する(9-8-4，1-7-3など)			1 細かい点にも注意して話の内容を聞き取る	
	3 「早く走っておいで」「ゆっくり歩いておいで」などの指示に従う			2 話し手の伝えたいことは何かということを考えながら聞く	
	4 同型，異種の積木で「重い方をちょうだい」の指示に従う			3 共に考えたいことは何かという観点で聞く	
	5 日常，目に触れている物の特徴を聞くと言えを指さす			4 話し手の意図を理解し，自分の感想や意見をまとめる	
	6 聞いていた話が途切れそうになると催促する			1 事象と感想，意見の関係を考えながら，話の内容を正確に聞き取る	
4歳	1 左右の弁別をする		小5年	2 適切で効果的な組立てを整理しながら聞き取る	
	2 4数復唱と2数逆唱をする			3 話し手の言葉遣いに注意しながら聞く	
	3 三つの簡単な指示を同時にしても記憶して順々に行う			4 話の内容と自分の生活や意見とを比べながら聞く	
	4 5個以上の形の違う積木で高低，長短，大小を聞くと2群化する				
	5 10色程度の色の名前を聞いて指さす				
	6 「た」や「つ」などの付く言葉を見付けて遊ぶ				
5歳	1 指示を聞き取り，団体行動をとる		小6年		
	2 読み聞かせの本の内容を想像的にたどろうとする				
	3 新しい言葉や聞き慣れない言葉を聞くとその意味を尋ねる				
	4 簡単な童話，放送などで内容のあらましを聞き取りながら楽しむ				
	5 しりとり遊び等の言葉遊びをする				
	6				

【「チェックリスト」の活用例】

右図は，学習集団5人分の高等部国語科の「チェックリスト」による実態把握の結果である。

一人一人の既習状況や学習集団における個人差を把握することができ，指導内容の選定及び全体指導計画の作成の根拠として活用できるため，児童生徒の実態に応じた具体的な学習活動の設定につなげやすい。



【指導内容の選択・組織の手順例（小学部国語科）】

指導内容の選択・組織及び題材設定までの手順は、以下に示すとおりである。

学習指導要領で示されている内容（小学部 国語）

第1段階

第2段階

第3段階

指導内容の選択

第1段階

第2段階

第3段階

年間指導計画（小学部第1学年・第2学年）

題材1	題材2	題材3	題材4	題材5	題材6
「あいさつやへんじをしよう」	「これなあに(物の名前)」	「とよよかにいこう」	「おはなしをきこう」	「かいてみよう」	「てがみをよう・かこう」
1-1問 2-2問 1-8話 1-10話 2-8話 2-9話	1-3問 3-6話 2-15話 2-16話 1-23書 2-21書 2-24書	3-1問 1-4問 2-3問 1-14話 2-11話 1-17話 2-25書	1-5問 2-4問 2-5問 3-2問 1-12話 2-13話 1-18話 3-24書	3-8話 3-9話 2-18話 2-22書 2-23書 3-25書 3-27書	2-7問 3-16話 2-18話 3-21話 3-26書 3-27書
4月 8時間	5～6月 12時間	7月 8時間	9～10月 14時間	11～12月 16時間	1～3月 12時間

指導内容の組織

第1・2学年 1-1問, 1-3問, 1-4問, 1-5問, 2-2問, 2-3問, 2-4問, 2-5問, 2-7問, 3-1問, 3-2問 1-8話, 1-10話, 1-12話, 1-14話, 2-8話, 2-9話, 2-11話, 2-13話, 3-6話, 3-8話, 3-9話, 3-16話 1-17話, 1-18話, 2-15話, 2-16話, 2-18話, 3-21話 1-23書, 2-21書, 2-22書, 2-23書, 2-24書, 2-25書, 3-24書, 3-25書, 3-26書, 3-27書
第3・4学年 1-5問, 1-6問, 2-5問, 2-6問, 2-7問, 3-2問 1-9話, 1-10話, 2-10話, 2-12話, 3-7話, 3-8話 1-17話, 1-21話, 2-17話, 2-18話, 3-17話, 3-20話 2-23書, 2-24書, 3-24書, 3-25書, 3-26書, 3-27書
第5・6学年 1-7問, 2-5問, 2-7問, 3-3問, 3-5問 1-11話, 1-12話, 1-15話, 2-8話, 2-13話, 3-13話, 3-15話, 3-16話 1-16話, 1-19話, 1-22話, 2-18話, 2-19話, 3-18話, 3-20話 2-25書, 3-24書, 3-25書, 3-26書, 3-27書

④

題材	おはなしをきこう	学年	小学部1, 2年	月(時数)	9～10月 (14時間)
指導目標	○ 絵本や紙芝居を見たり、聴覚教材による簡単な話を聞いたりして、登場する身近な物の名前を言ったり、好きな場面を探したりすることができるようにする。 ○ 登場したものやおもしろかった場面を発表したり、動作化で表現したりすることができるようにする。				
主な学習活動・内容	指導上の留意点		準備		
1 絵本や紙芝居を見る。 (1) 教師と一緒に見る。 1-5問 2-5問 (2) 好きな場面を動作化する。 2-4問 (3) 出てきたものやおもしろかったことを発表する。 1-18話 3-24書 2 聴覚教材による話を聞く。 (1) 教師と一緒に聞く。 2-5問 (2) 出てきたものを言ったり、絵カードで選んだりする。 3-2問 (3) 好きなせりふやおもしろい場面をまねする。 1-12話 2-13話	○ 児童がよく知っているものが登場する絵本を選び、興味・関心を高めながら教師と一緒に見るようにする。 ○ 読み聞かせするときには、表情や抑揚、ページのめくり方などを工夫しながら話すようにする。 ○ 絵本の絵を指ささせたり、絵カードを選んだりすることで楽しかった場面を伝えられるようにする。 ○ 絵本や絵カードなどを手掛かりに、絵本の中の動きを動作化するなどして表現したり、発表したりできるようにする。 ○ あらすじの分かりやすい話を選び、興味・関心を高めながら教師と一緒に聞くことができるようにする。 ○ 場面ごとに区切り、あらすじを確認させながら話を進めるようにする。 ○ 絵カードを用いて話の内容を可視化したり、効果音のCDを用いたりして場面の臨場感を感じることができるようにする。 ○ 絵カードを選んだり、音声化したりすることで楽しかった場面を発表できるようにする。		・絵本 ・紙芝居 ・絵カード ・聴覚教材 ・効果音のCD ・絵カード		

【平成27年度調査研究発表会】
全体会研究発表Ⅱ

特別支援学校における一貫性・系統性のある指導の在り方に関する研究Ⅱ

—知的障害のある児童生徒の指導目標の設定及び指導内容の選択・組織の工夫—

新しい自分探し 教育センターまで
～字ひの一步、還元の二歩～

鹿児島県総合教育センター
特別支援教育研修課

1

知的障害のある児童生徒の特性

知識が断片的になりやすい、生活への応用が困難 など

授業づくりにおいて踏まえること

学習集団における実態
差の大きさへの対応

同じ教科書を使って指導することの難しさ

全体指導計画と個別の指導計画からの授業

複数の教師による指導

2

一貫性・系統性のある指導

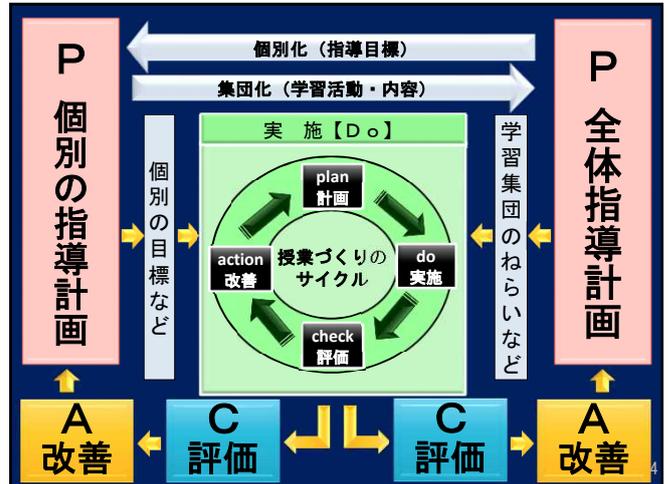
一貫性のある指導

一人一人の教育的ニーズや指導内容・指導方法などを明らかにし、指導者間及び学部間などで共有して指導すること

系統性のある指導

一人一人の指導目標や指導内容を、各教科の目標や内容、発達の段階や生活経験、生活年齢などを踏まえて指導すること

3



4

研究のねらい

知的障害のある児童生徒の指導目標の設定及び指導内容の選択・組織についての現状と課題を明らかにする。

実態把握に基づく児童生徒一人一人の指導目標の設定と指導内容の選択・組織の基本的な考え方と手続を提案する。

全体指導計画や個別の指導計画の改善を図り、**一貫性・系統性のある指導の充実**を目指す。

5

研究内容

- | | |
|------|--|
| 26年度 | <ul style="list-style-type: none"> 特別支援学校における指導目標の設定及び指導内容の選択・組織に関する実態調査 本課作成のチェックリストを活用した実態把握に基づく指導目標の設定と具体例の提案 |
| 27年度 | <ul style="list-style-type: none"> 指導内容の選択・組織の基本的な考え方の整理と手続の提案 指導に関する評価の観点の見直し 指導目標の設定及び指導内容の選択・組織の工夫による授業改善について、研究協力員による検証授業の実施 |

6

実態調査

7

実態調査の概要

対象

県立特別支援学校16校
知的障害のある児童生徒の指導に携わる者176人

方法

質問紙法

内容

- I 個別の指導計画
- II 全体指導計画
- III 全体指導計画と個別の指導計画、授業との関係
- IV 評価

実施

平成26年 8月

回収率

100%

8

実態調査の結果と分析①

実態把握の結果の生かし方



9

実態調査の結果と分析②

チェックリスト及び心理検査等の生かし方

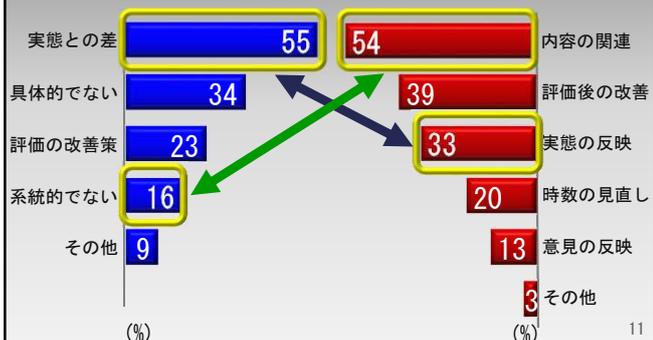


10

実態調査の結果と分析③

全体指導計画 活用の課題

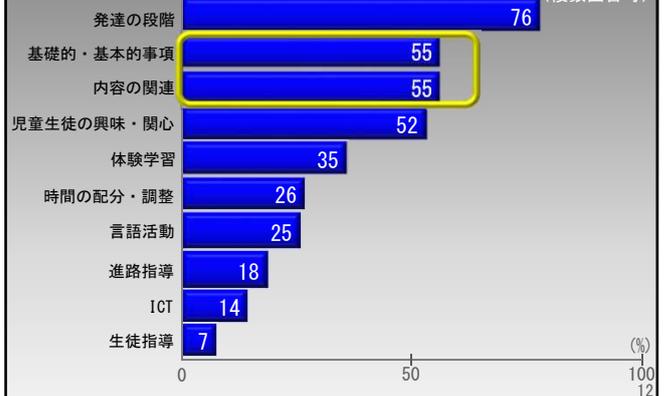
指導内容の 見直しの課題



11

実態調査の結果と分析④

全体指導計画における指導内容の組織化を図る際の留意点 (複数回答可)



12



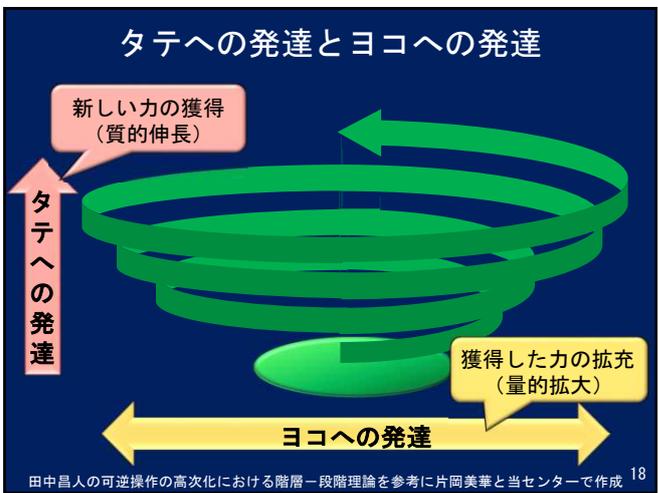
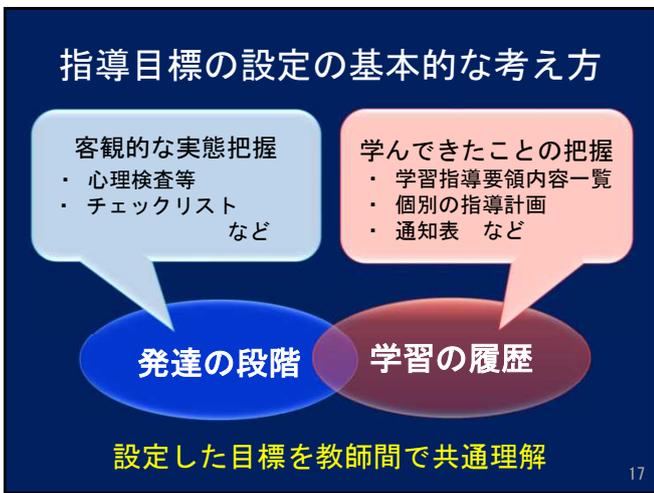
- ### 実態調査の結果の分析
- 児童生徒の実態把握については、客観的な指標をもって行う必要がある。
 - 指導目標や指導内容を設定する際には、「何を」、「どれくらい」学ばせるかということを整理する必要がある。
 - 評価については、明確な目標を設定することで、より妥当性が高くなる。
- 14

研究内容

15

指導目標の設定

16



子供をよりよく理解するための国語、算数・数学チェックリスト<改訂版>

評価項目	1段階	2段階	評価項目	1段階	2段階
1. 発音	声を出して発音する	声を出して発音する	1. 聞く	意見が聞ける	意見が聞ける
2. 発音	自分の声、相手の声、周りの音、カラオケの音に聞き分けられる	自分の声、相手の声、周りの音、カラオケの音に聞き分けられる	2. 聞く	内容の大体を知ることができる	内容の大体を知ることができる
3. 発音	自分の声、相手の声、周りの音、カラオケの音に聞き分けられる	自分の声、相手の声、周りの音、カラオケの音に聞き分けられる	3. 聞く	内容の大体を知ることができる	内容の大体を知ることができる
4. 発音	自分の声、相手の声、周りの音、カラオケの音に聞き分けられる	自分の声、相手の声、周りの音、カラオケの音に聞き分けられる	4. 聞く	内容の大体を知ることができる	内容の大体を知ることができる
5. 発音	自分の声、相手の声、周りの音、カラオケの音に聞き分けられる	自分の声、相手の声、周りの音、カラオケの音に聞き分けられる	5. 聞く	内容の大体を知ることができる	内容の大体を知ることができる
6. 発音	自分の声、相手の声、周りの音、カラオケの音に聞き分けられる	自分の声、相手の声、周りの音、カラオケの音に聞き分けられる	6. 聞く	内容の大体を知ることができる	内容の大体を知ることができる

発達の段階
0歳から6歳まで

学習指導要領の内容
小1から小6
中1から中3まで

※ 国語（聞く）一部抜粋 19

「チェックリスト」の活用例（国語）

高等部 1 年生

個人内の差

	0~1歳						1~2歳						2~3歳						3~4歳						4~5歳					
領域	1	2	3	4	5	6	1	2	3	4	5	6	1	2	3	4	5	6	1	2	3	4	5	6	1	2	3	4	5	6
聞く	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
話す	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
読む	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
書く	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

○：できている △：できつつある

20

「チェックリスト」による学習集団の実態（国語）

生徒	0~1歳	1~2歳	2~3歳	3~4歳	4~5歳	小1	小2
生徒A	○	○	○	○	○	○	○
生徒B	○	○	○	○	○	○	○
生徒C	○	○	○	○	○	○	○
生徒D	○	○	○	○	○	○	○
生徒E	○	○	○	○	○	○	○

学習集団の実態

21

指導内容の選択・組織

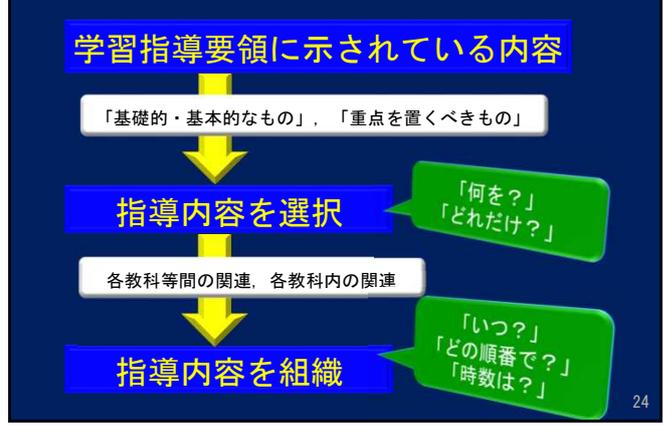
22

国語科の具体的な内容一覧（抜粋）

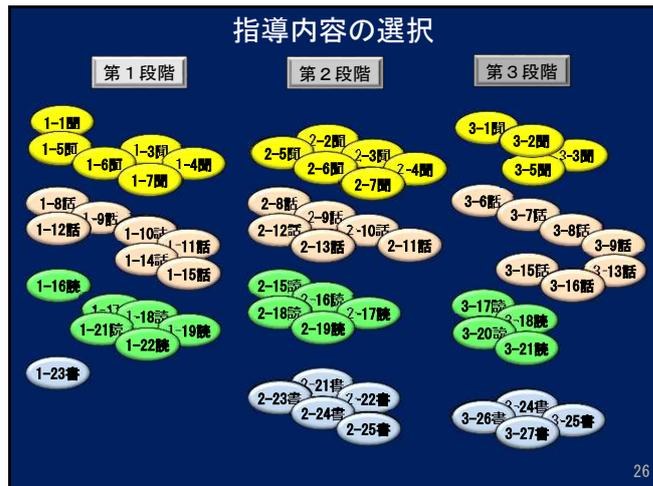
1段階	2段階	3段階	4段階	5段階	6段階
小学部			中学部		高等部
1. 声や音のする方向に、振り向いたり、耳を傾けたりする。	1. 教室などで、話をする人の方を見て、聞く。	1. 話を終わらまて静かに聞く。	1. 教師などの説明や友達の話を聞いて、おおよその内容が分かる。	1. 物語、劇、映画、テレビなどを見たり、聞いたりして楽しみ、あらすじが分かったり、中心の内容を正しく聞き取ったりする。	1. 物語や小説を読んだり、テレビや映画を見たりして楽しみ、感想を話したり、書いたりする。
2. 教師の話し掛けに興味や身振りで応じる。	2. 友達からの働き掛けに応じる。	2. 物語などを聞いて、おおよその内容が分かる。	2. 物語、劇、映画、テレビなどを見たり、聞いたりして楽しみ、簡単な感想を話す。	2. 物語や小説の内容が分かる。	2. 物語などを見たり、聞いたりして場面や登場人物の気持ちや行動が分かる。
3. 教師や友達と一緒に、紙芝居やテレビなど視聴覚教材を見て楽しむ。	3. 簡単な会話、放送、録音などを楽しく聞く。	3. 教師などの説明、友達の話を楽しく聞き、簡単な内容を話せる。	3. 簡単な放送や録音などの内容を聞き取るができる。		
23. いろいろな筆記用具を使って、なぐり書きをする。	20. 点線のしをなぞって書く。	23. 漢字で文字を書くこととする。	21. 見聞きしたことや経験したことなどについて、できるだけ順序立てて書く。	18. 経験した事柄を順序立てて、要領よく書く。	25. 経験した事柄を順序立てて、自分の意見や感想を伝えながら分りやすく書く。
	22. 文字を書くことに興味をもつ。	24. 簡単な図形や文を、平假名で書く。	22. 簡単な手紙や日記を書く。	19. 手紙や電文を読んだり、書いたりする。	2. 手紙の目的に応じて、筆記用具を使い分けたり、工夫したりして書く。
	23. 鉛筆などを正しく持ち、正しい姿勢で書く。	25. 簡単な絵日記を書く。	20. 毎日、日記を書く。		

23

教育課程編成の手順における指導内容の選択・組織



24



年間指導計画 (小学部第1学年・第2学年)

題材1	題材2	題材3	題材4	題材5	題材6
「あいさつやへんじをしよう」	「これなあに(物の名前)」	「としょかん」	「おはなしをきこう」	「かいてみよう」	「てがみをよもう・かこう」
1-1 聞 2-2 聞 1-8 話 1-10 話 2-8 話 2-9 話	1-3 聞 3-6 話 2-15 話 2-16 話 1-23 書 2-21 書	3-1 聞 1-4 聞 2-3 聞 1-14 話 2-11 話 1-17 話 2-25 書	1-5 聞 2-4 聞 2-5 聞 3-2 聞 1-12 話 1-18 話 2-13 話 1-18 話 3-24 書	3-8 話 3-9 話 2-18 話 2-22 書 2-23 書 3-25 書	2-7 聞 3-16 話 2-18 話 3-21 話 3-26 書 3-27 書
4月 8時間	5~6月 12時間	7月 8時間	9~10月 14時間	11~12月 16時間	1~3月 12時間

題材	おはなしをきこう	学年	小学部1・2年	月(時数)	9~10月(14時間)
指導目標	絵本や紙芝居を見たり、聴覚教材による簡単な話を聞いたりして、登場する身近な物の名前を言ったり、好きな場面を動作化したり、登場したものをよめたりすることができるようにする。				
主な学習活動・内容					具体的な指導内容
1 絵本や紙芝居を見る。	(1) 教師と一緒に見る。	1-5 聞	好きな絵本など視覚教材を読んでもらって楽しむ。		
	(2) 好きな場面を動作化する。	2-5 聞	絵本、簡単な紙芝居やVTRなどを見たり、聞いたりしてその内容を楽しむ。		
	(3) 出てきたものやおもしろかったことを発表する。	2-4 聞	興味のあるものを言ったり、動作で表現したりする。		
		1-18 読	簡単な絵本を読もうとしたり、読んでもらったりすることを喜ぶ。		
		3-24 書	簡単な語句や短い文を平仮名で書く。		
2 聴覚教材による話を聞く。	(1) 教師と一緒に聞く。	2-5 聞	絵本、簡単な紙芝居やVTRなどを見たり、聞いたりしてその内容を楽しむ。		
	(2) 出てきたものを言ったり、絵カードで選んだりする。	3-2 聞	物語などを聞いて、およその内容が分かる。		
	(3) 好きなせりふやおもしろい場面をまねる。	1-12 話	簡単なごっこ遊びをしながら、やり取りを楽しむ。		
		2-13 話	友達と一緒に簡単なせりふのある劇をする。		

教師の指導の評価

教師の指導に関する評価の観点例

指導目標

- 実態に即したものであったか。
- 教師が評価しやすいものであったか。
(数値や基準が示されていたか。) など

指導内容

- 目標を達成するのに適した指導内容であったか。
- 生活に生かすことを、指導内容として考えていたか。
- 成功経験を得やすいものであったか。 など

学習環境

- 注意を向けやすい学習環境が整っていたか。
(掲示物の精選、板書の構造化 など)
- 活動のしやすさを考慮した学習環境が整っていたか。
(机の位置、動線の工夫、教室内の整理整頓 など) など 31

教師の指導に関する評価の観点例

指導方法

主体的な活動の工夫

- 学習のねらいや学習の流れを明確に示し、学習活動への見通しがもてるようにしていたか。
- 考える場面を設定していたり、時間を確保したりしていたか。 など

言語活動の充実の工夫

- 具体的で、分かりやすい発問や説明だったか。
- 発問の際の声の大きさ、速度は適切であったか。
- 発表したり、報告したり、伝え合ったりする場面を設定していたか。 など

個に応じた工夫

- 段階的な指導をしていたか。
- 支援が多すぎたり、少なすぎたりしていなかったか。 など 32

教師の指導に関する評価の観点例

教材・教具

- 実態に合った教材・教具であったか。
- 興味・関心をもちやすい教材・教具であったか。
- 効果的に教材・教具の提示を行っていたか。
- コンピュータなどのICTを適切に活用していたか。

指導体制

- 学習集団の構成が工夫されていたか。
(個別、ペア、グループ、習熟度別 など)
- チーム・ティーチングにおいて、指導者間の共通理解が図られていたか。 33

研究の成果と課題

研究の成果

- P D C Aサイクルにおける一貫性・系統性のある指導の課題が明らかになった。
- 「チェックリスト」の活用が妥当な実態把握と指導目標の設定につながった。
- 指導内容の選択・組織によって児童生徒の実態に即した学習活動の設定につながった。 34

研究の成果と課題

今後の課題

- 指導内容一覧の整理・作成及び一貫性・系統性のある指導の充実のための情報提供
- P D C AサイクルにおけるC(評価) - A(改善)を促進させるための評価ツールの改良と手続の提案 35

【平成27年度調査研究発表会】
全体会研究発表Ⅱ

特別支援学校における一貫性・系統性のある指導の在り方に関する研究Ⅱ

一知的障害のある児童生徒の指導目標の設定及び指導内容の選択・組織の工夫一

新しい自分発見 教育センターで...
～学びの一步、還元の二歩～

 鹿児島県総合教育センター
特別支援教育研修課 36